

実践記録（小2・生活科）

1 わらい

自分で選んだ野菜を育てる中で、成長の様子について気付きを得たり、それを分かりやすく伝えたりすることができる。

2 手立て

- ・ よい気付きを得ることにつながる着目点の設定・追究・表現

着目点を設定し、〇〇はかせと名付ける。着目点ごとの気付きを秘密とし、その秘密を最後まで意識し、常に追究し続けることで、小さな変化にも気付くことができるようにする。

- ・ 気付きを得たり、友達に分かりやすく伝えたりするためのICT活用

よい気付きを得るために実践の中で効果的にICTを活用する。そうすることで、口頭ではイメージしづらいところや、記憶だけではあいまいなところも分かりやすく伝えることができる。そして、情報を全員で共有することで、自分の観察や活動を振り返り、新たな気付きを得ることにつなげていけるようにする。

3 実践の様子

育てる野菜ごとにチームを作った。「葉」、「茎」、「花・実」と三つの着目点を教師が設定し、児童に選ばせた。選んだ着目点ごとに「〇〇はかせ」と名付け、野菜の成長の変化を記録させていった。同じ着目点を追究し続けることで、細かいところまで観察ができるようになり、着目点を意識しながらよい気付きを得ることができていた。



【オンラインで野菜名人に質問している様子】

野菜の世話をしていく中で、着目点について疑問に思うことや、世話の仕方について分からないことがたくさん出てきた。そこで、分からないところを戸田川緑地センターの方に協力していただき、オンラインテレビ会議システムを活用して野菜名人に質問した。最後は、自分が発見した秘密について、「やさいのひみつはっぴょう会」を行った。タブレット型PCを活用し、おすすめの秘密を拡大して共有した。肉眼では、なかなか気付かない葉の細かい毛の様子を拡大



【タブレット型PCを活用した発表の様子】

したり、画面を指でなぞりながら、見てほしい箇所を丸で囲み伝えていったりした。また、すべての発表を聞き終えた後に、実際の植木鉢の野菜を観察し、秘密として発表された内容を確認したことで、さらに新しい気付きを得られた。

4 成果（○）と課題（●）

- 着目点を設定・追究したことで、子どもたちは何を観察すればよいのかが明確に分かり、よい気付きを得ることにつながった。
- オンラインテレビ会議システムで、野菜名人の方と実際に育てている鉢を見ながらやり取りしたことで、自分だけでは得られない気付きを得ることができた。
- タブレット型PCで拡大し、見てもらいたいところを書き込みながら強調して発表したことで、相手に分かりやすく伝えることができた。
- 2年生という発達段階を踏まえ、教師が着目点を設定したり、発表に使う静止画を撮ったりしたが、児童の主体性に任せられるとよかった。